

センサーカメラを活用した箱わなでのイノシシ多頭捕獲技術

1 背景と目的

- 箱わなによる捕獲では、見回りの時に餌やわな周辺の状態を確認することで、動物が来ているかどうかの判断が可能です。
- しかし、それだけでは獣種の特定や、何頭の個体がわなに誘引されているのかを判断することは困難です。
- そのため、センサーカメラを活用することで、わなへの誘引状況や、対象獣種の数や映像を確認しながら適切な量の餌付け等が可能になると考え、モデル集落の捕獲者と協力して箱わなによるイノシシの多頭捕獲に取り組みました。

2 方法

【モデル集落の概要】

- 柑橘、キウイフルーツ等の果樹産地
- イノシシによる柑橘園への侵入被害が多い
- 有害鳥獣捕獲の参加者は3名

【活動の内容】

- 若手ハンター1人が設置している箱わなに、3m程離れた位置から入口及び周辺が見えるようにセンサーカメラを設置し、誘引されている獣種や頭数を動画で確認しました。
- 動画の様子から、餌の投入量や蹴り糸を設置する高さについて検討し、捕獲者が捕獲を行いました。



3 結果

- 2022年7月29日から撮影を開始し、2022年8月5日には当日に設置した餌が複数の幼獣によって3時間程度で完食され、親が誘引できていない状況であることが分かったため、以降餌を増量しました。餌には麦、米ぬか、スイカ等を使用し、1日～2日間隔で補充しました。
- 餌付けが進み、成獣が箱の中に入る頻度が増えてきた段階で、成獣の大きさ等から蹴り糸の高さや位置を検討しました。箱の奥から80cm、高さ55cmの位置に蹴り糸を設置した結果、2022年9月2日の夜にイノシシ成獣1頭、幼獣8頭の同時捕獲に成功しました。



4 考察

- 箱わなにセンサーカメラを組み合わせることで、イノシシがわなに近寄る頻度や頭数、成獣の餌付けに適切な量の餌の投入ができていないかを判断することが可能になります。
- 頻繁な見回りや、餌の追加、交換等、適切なわなの管理と組み合わせることで重要です。

※詳細は「動画で見る有害獣捕獲マニュアル」に掲載しています。

URL : <https://ehime-hunting.com/pages/?p=5275>

